

氏 名	三 橋 勇
学位(専攻分野)	博 士 (経済学)
学位記番号	論経博第253号
学位授与の日付	平成12年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	社会主義リクリエーションの市場経済移行：カザフスタン・アラタウ

論文調査委員	(主 査) 教 授 塚 谷 恒 雄	助教授 久 武 昌 人	助教授 溝端佐登史
--------	----------------------	-------------	-----------

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は観光経済学の一分野としてレクリエーション問題を取り上げ、市場経済移行過程にあるカザフスタンのサナトリウムの経営分析を行ったものである。

第1章ではカザフスタンにおけるレクリエーション問題が概観される。その前提として人口動態分析がなされ、近年に至り人口減少が発生していることが指摘される。国の富であるこの「黄金の資産」を失うのはまことにたやすく、逆に回復はきわめて困難である。経済的に推定し得るいずれの人口統計指数改善策にもまして、レクリエーション活動が勝ることが指摘される。次にカザフスタンの鉱泥浴や転地療養資源、サナトリウムの医学・生物学的効果とくに結核治療が紹介される。最後に転地療養・サナトリウム療法の社会的効果が分析されている。

第2章ではレクリエーションのシステム論が展開される。とくに生物集団の動態と恒常性に着目し、それをロトカ・ボルテラ方程式を発展させて論じ、また旧ソ連で発展したシステム理論が批判的に紹介される。レクリエーションシステムは制御システムであり、多くの要素から成り立つ一部自己組織化システムである。このモデルが恒常的であるための必須条件は計画と調節であるとされる。またレクリエーション活動の地理的選択性や自然全般の空間的非類似性などが、他ならぬ地域限定機能モデルの設計の必要性が論ぜられる。ついでレクリエーションシステムがいわゆる医学的地理学の一分野の対象であることが、自然病巣、疾病分布圏、疾病・生態系、人間・生物群の考察を通して論ぜられる。

第3章では社会主義レクリエーションの市場経済移行に伴う企業売買の市場価格が計算される。ある集団または経営者が企業を国から買い取って私有化する場合、国が設定する最低価格、買い手にメリットがある最高価格が数学的に求められる。次いで国との決済を行った後、自己資本を増やすために外部投資家に対して株券を発行・売却する問題が扱われる。そこでは手元に残しておくべき株券(Control parcel)の量が定量的に求められている。

レクリエーション活動は、個人、社会、国家がレクリエーションの需要にどのような多様性を示すかによって影響を受ける。レクリエーションの全体は、医学・生物学的、社会・文化的、経済的分野の活動に分けることができる。第4章ではレクリエーション活動が持つ経済面が分析され、それを満たす事業としてリース条件による転地療養・サナトリウム型企業の関数モデルが構築される。このモデルでは基礎となる経済的推測が企業にとって好ましくない状態を導く可能性が示される。この状態を避けるには、固定賃借料を支払う条件のもとで、企業は積極的に消費市場へ働きかけ、新機軸を導入し、新しい科学技術の成果を活用しなければならないことが強調される。

第5章では1986年に完成したカザフスタンの代表的サナトリウム『アラタウ』の経営の現状が豊富な内部資料を駆使して分析される。『アラタウ』は1990年に独立採算制へ移行し、一連の組織・技術的対策を実行して機構改革を行なった。本章ではこれに伴う独立会計収益の形成とその活用の原則が提示され、独立採算制における賃金の支払い、移行による組織的対策、リース借契約条件、そしてサナトリウムの収益分配が論ぜられる。これらの改革が労働への意欲を駆り立て、どの部門あるいは経済分野でも著しい経済効果を挙げうる可能性が指摘される。

最後の第6章では、サナトリウム『アラタウ』の生産要素とサービス売上量との関係が転地療養・サナトリウム型企業の関数モデルを使って分析される。企業関数モデルは、主要経済指数動態を表わす論理方程式系によってつくられた。それら

は主要生産基金の運動方程式、資本動態方程式、拡張基金の運動方程式、および純生産物と純利益計算の方程式から成り、主要経済指数が高い精度で予測される。これらの分析の結果、今後従業員数と主要生産基金を増加させるのは有効でなく、サナトリウムの経済効率をあげる道は経営メカニズムのモデルを変えることによってのみ可能であることが結論づけられる。

論文審査の結果の要旨

本論文は、わが国で数少ない観光経済学の視点からレクリエーションのシステム論を発展させ、また市場経済移行過程にあるカザフスタンにおいてサナトリウム企業『アラタウ』の計量経済学的分析を行った労作である。

本論文の第1の貢献は、中央アジアのレクリエーションの詳細をはじめて明らかにしたことである。カザフスタンはともすればカスピ海の石油・天然ガス資源開発、処女地開拓、核実験などでしか知られていないが、広大な国土にはレクリエーションに適した多くの自然資源を擁している。本論文では、独立後の経済困難や軍事産業による環境汚染被害、人口減少などとレクリエーションとが密接に関連していることが強調され、またわが国では巷間に知られていない転地療養・サナトリウムの社会的効果や医学生物学的効果が明らかにされている。

第2の貢献は、旧ソ連で発展したレクリエーションのシステム理論を批判的に紹介したことである。本論文では情報とレクリエーション問題へのシステムアプローチの概念が述べられ、1960年代末にブレオブラジェンスキーらによって提示された階層構造型システム仮説が紹介される。そこでは人間が敵対する環境の消極的被害者ではなく、環境の潜在的病理力は人間と環境との関係がどのようにあるかによって具現化するとされた。本論文はその仮説をさらに推し進め、人間活動の結果生じた自然対象の変化のみならず、人間と対象間に生じ得る相互関係の変化までも考慮すべきであると主張する。この場合医学的地理学の範囲には、新たに環境という要素が現われる。

第3の貢献は、国営企業を私企業として機能させるための方法論を構築したことである。本論文はそのため企業売買の市場価格を計算し、ついで起業家と関心が一致する社外株主および投機家への株券の発行・売却問題が解かれた。ロシアや新独立国家ではこのことに関心を寄せた企業家がなかったために外国投資をはじめ十分な資本が流入しない現状を考えれば、本論文の政策的功績は大きい。次に本論文は転地療養・サナトリウム型企業の関数モデルを、主要生産資産と企業拡張資産を変数とする二次元動的システムの形で定式化した。このモデルから企業の存続や消滅の条件が導かれる。これはレクリエーション活動がもつ経済面の研究を需要、生産、消費の概念を用いて定式化したものであって、観光経済学に新しい数理経済学の分析視角を提示するものとして評価しうる。

そして第4の貢献は、サナトリウム『アラタウ』の内部資料を克明に渉猟し、それに基づき上記関数モデルによる計量経済学的動的予測を行った点にある。この分析で重要な問題は予測精度の評価である。予測精度は経済的仮説が正しいかどうか、またシミュレートされる対象のモデルが適当か否か、そしてそのモデルがふさわしいかどうかは、過去のデータにさかのぼってテストをすることで確認できる。本論文は、関数モデルによる計算精度が高いこと、シミュレートした対象とモデルがよく一致していたことを明瞭に示している。

以上、本論文は新しい研究領域に分け入った開拓的な業績といえるが、残された課題も少なくはない。

第1に、社会主義計画経済下で行われた国有企業経営にはそれ固有の経済概念があるが、その概念や実態が近代経済学の概念には必ずしも馴染まないものがあり、本論文でもこの問題が解決されているとは評価しがたい点がある。20世紀に人類が経験した社会主義経済の経験を後世に伝えるためにも、一層の概念整理が必要であろう。

第2に、本論文で展開されたレクリエーションのシステム理論が、その後の実態分析に比べややもすると高踏的な印象を与えかねず、本論文が主張したい意図が充分には伝わらない部分が散見される。

このように本論文にはいくつかの問題点があるものの、それらは今後の申請者の研究課題として設定されているというべきであろう。本論文は、わが国経済学で従来かえりみられなかった観光経済学と言う新しい課題を、20世紀におきた社会主義経済の市場経済移行という歴史的転換期に描き切ったものである。

よって、本論文は博士（経済学）の学位論文として価値あるものと認める。なお、平成12年2月18日論文内容と、それに関する試問を行った結果合格と認めた。